

令和7年11月28日

報道関係 各位

南方熊楠顕彰館
館長 松居 竜五

南方熊楠フォーラム in 上野「南方熊楠とコレクション構築」の開催について

平素は、南方熊楠翁の顕彰事業にご高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、南方熊楠顕彰会では、下記のとおり、南方熊楠フォーラム in 上野「南方熊楠とコレクション構築」を開催しますので、報道方よろしくお願ひいたします。

記

■南方熊楠フォーラム in 上野「南方熊楠とコレクション構築」

日 時：令和8年2月7日（土） 13時～16時（開場12時30分）

会 場：国立科学博物館 日本館2階 講堂

（東京都台東区上野公園7-20）

定 員：120名（事前申込制）

参 加 費：無料

申込方法：①電話（南方熊楠顕彰館：0739-26-9909）

②Google フォーム (<https://forms.gle/gmgbx48wYFsUrmkCe6>)

申込期間：令和7年12月2日（火）10時から令和8年2月1日（日）17時まで

※定員になり次第、受付終了

そ の 他：詳しくは別紙をご参照ください。

■連絡先

田辺市教育委員会

文化振興課 南方熊楠顕彰館

担当：崎山 TEL：0739-26-9909

南方熊楠とコレクション構築



基調講演

「フグ目魚類の多様性研究と魚類データベース」

講師 松浦 啓一 氏

(国立科学博物館名誉研究員/第35回南方熊楠賞受賞者)

研究発表①

「コレクション収集からみる熊楠、魚類研究および生物多様性情報」

中江 雅典 氏 (国立科学博物館動物研究部研究主幹)

研究発表②

「動物園の分類学と本のなかの分類学」

志村 真幸 氏 (慶應義塾大学准教授/南方熊楠顕彰会常任理事)

パネルディスカッション

「デジタル情報とモノとしての資料が持つ意味—南方熊楠のコレクションとアーカイブから」

●パネリスト

松浦 啓一 氏 (国立科学博物館名誉研究員/第35回南方熊楠賞受賞者)

中江 雅典 氏 (国立科学博物館動物研究部研究主幹)

志村 真幸 氏 (慶應義塾大学准教授/南方熊楠顕彰会常任理事)

細矢 剛 氏 (国立科学博物館副館長・植物研究部長)

田村 義也 氏 (成城大学非常勤講師/南方熊楠研究会会長)

●コーディネーター/総合司会

松居 竜五 氏 (龍谷大学教授/南方熊楠顕彰館館長)

2026 2・7 [土]
13:00~16:00 (開場12:30)

会場 国立科学博物館 日本館2階 講堂

(東京都台東区上野公園7-20)

定員 120名 (事前申込制)

参加
無料

申込方法

専用フォームでのお申込み



Google フォーム

<https://forms.gle/gmgx48wYFsUrmkCe6>

電話でのお申込み

TEL 0739-26-9909

先 (開館時間) 10時~17時

先 (休館) 月曜日、祝祭日の翌日、12/28~1/4

【申込期間】
2025年12月2日(火)10時~2026年2月1日(日)17時

南方熊楠とコレクション構築

南方熊楠は、希代の博物学者・民俗学者として知られています。熊楠はアメリカ・イギリスを多年に渡って旅し、アメリカやキューバでは菌類の標本を収集しました。一方、イギリスでは、大英博物館の図書室で多数の書籍から自分のノートに抜書をして情報を集め「ロンドン抜書」と呼ばれる資料を作成しました。帰国後は多数の図書を収集したばかりでなく、変形菌やきのこの生物標本を多数採集し、「きのこ図譜」として知られるきのこの資料や変形菌などの膨大なコレクションを残しました。そして和歌山県田辺でも「田辺抜書」として抜書の活動を続けました。このような「集めてコレクションを構築する」活動は、博物館のはたらきに通じるところがあります。

そこで、このシンポジウムでは、標本・資料の収集と整理の思想、そしてそれらが今日の自然史や民俗学研究にどのような示唆を与えるのかを考えます。

本年の南方熊楠賞受賞者の松浦啓一氏を中心として、国立科学博物館の若手研究者や南方熊楠の研究者を招いて話題提供とパネルディスカッションを行います。博物館や研究機関が担うコレクション構築の意義を考えてみましょう。



松浦 啓一 (まつうら けいいち)

国立科学博物館名誉研究員。博士(水産学)。専門は魚類学。北海道大学大学院水産学研究科博士課程修了。東京大学大学院教授、国立科学博物館動物研究部長などを歴任。日本動物分類学会賞(2011年)、南方熊楠賞(2025年)などを受賞。2024年に瑞宝双光章。主著に『したたかな魚たち』、『けなげな魚図鑑』など。



田村 義也 (たむら よしや)

成城大学非常勤講師、南方熊楠研究会会長。専攻は比較文学比較文化(特に近代日本美術史・文化史)。1993年以来、南方熊楠邸での熊楠蔵書・資料調査に参加し、『南方熊楠邸蔵書目録』、『同資料目録』を編纂。現在、南方熊楠顕彰会学術部長。著書に『南方熊楠英文論考[ネイチャード・アンド・エコロジーズ]』(編訳)、『同[ノーツアンド・クエリーズ]』(編訳)、『南方熊楠とアジア』(共編)、『南方熊楠大事典』(共編)など。



中江 雅典 (なかえ まさのり)

国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ研究主幹、筑波大学グローバル教育院教授(協働大学院)、成蹊学園サステナビリティ教育研究センター客員フェロー。博士(理学)。専門は魚類学(特に形態学)。高知大学大学院理学研究科博士後期課程修了。著書に『新魚類解剖図鑑』(共著)、『奄美群島の魚類図鑑』(共編)、『Fish Diversity of Japan』(共著)など。



細矢 剛 (ほそや つよし)

国立科学博物館副館長・植物研究部長。博士(理学)。製薬会社勤務を経て2004年より国立科学博物館勤務。専門は菌類で、製薬会社では薬のものとなる物質を探る研究をしており、国立科学博物館では系統分類学的研究を行う。現在までに数多くの新種・新種を報告。主な著書に『菌類の世界 さのこ・カビ・酵母の多様な生き方』(誠文堂新光社)など。



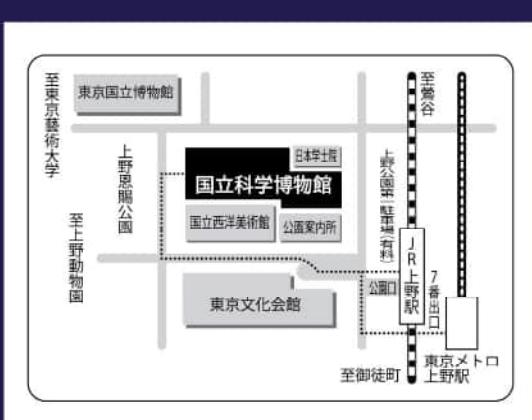
志村 真幸 (しむら まさき)

慶應義塾大学文学部准教授。専門は比較文化研究。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了、博士(人間・環境学)。南方熊楠顕彰会常任理事。著書に『南方熊楠のロンドン―国際学術雑誌と近代科学の進歩』、『未完の天才 南方熊楠』、『南方熊楠の生物学茶羅』(編著)、『南方熊楠と蛇の博物誌』(編著)など。



松居 竜五 (まつい りゅうご)

龍谷大学国際学部教授、南方熊楠顕彰館長。専門は比較文学、南方熊楠研究。1990年に初めて南方熊楠邸を訪ね、その後、南方熊楠資料研究会、南方熊楠顕彰会の一員として初期の部内資料調査から熊楠研究・顕彰事業に深く関わる。2021年4月より南方熊楠顕彰館館長に就任。現在、日本国際文化学会常任理事、南方熊楠研究会運営委員等を兼任。著書に『南方熊楠―一切知の夢』(小泉八雲賞受賞)、『南方熊楠 複眼の学問構想』(角川財団学芸賞受賞)など。



【会場】

国立科学博物館 日本館 2階 講堂

- JR 上野駅(公園口)から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線 上野駅(公園口)から徒歩10分
- 東京メトロ日比谷線 上野駅(公園口)から徒歩10分
- 京成線 京成上野駅(正面口)から徒歩10分